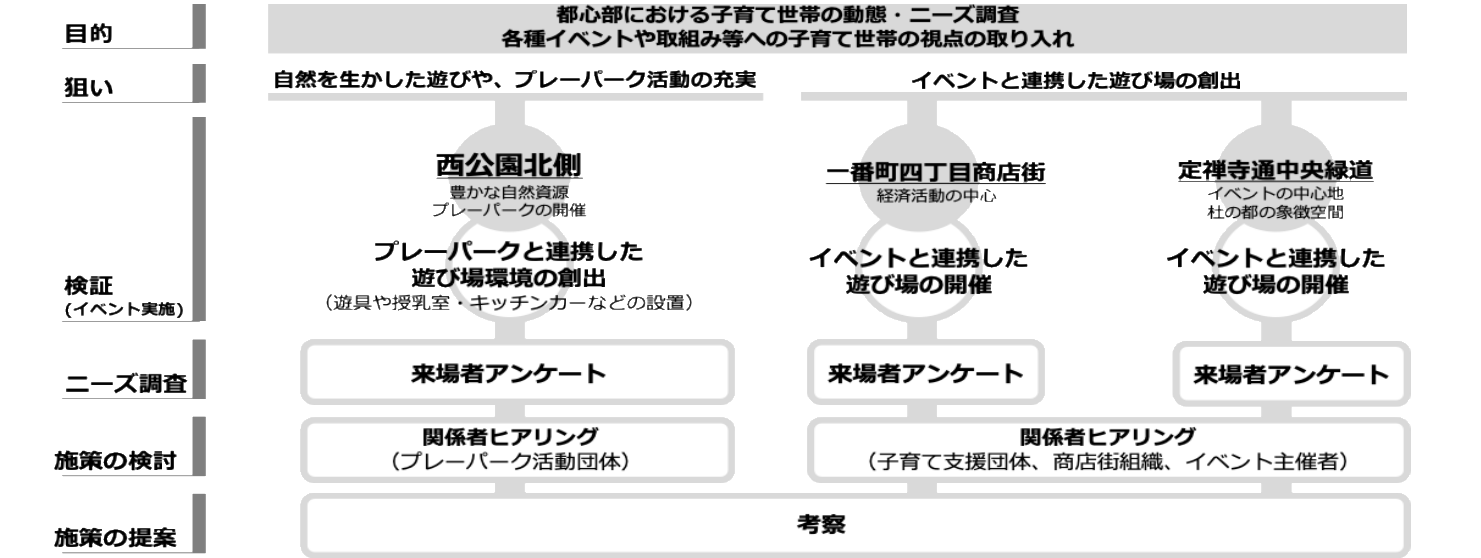


令和6年度仙台市都心部遊び場調査業務委託 報告書（概要版）

1 目的

「杜の都・仙台」を象徴するエリアであり、まつりやイベントなど賑わいの中心かつ商店街等の経済活動の場である、西公園・一番町四丁目商店街・定禅寺通周辺に、こどもの遊び場や子育て家庭が楽しめる機能を一体的に配置し、本エリアにおける子育て家庭の動態やニーズ等を調査する。本調査をととして、本エリアにおけるこどもの遊び場の意義づけを整理するとともに、各種イベントや取組み等へ子育て世帯の視点を取り入れることを促進することで、子育て世帯にとって居心地がよく、さらには、こども・子育て家庭の交流の場となることを目指す。

2 業務の進め方



3 調査の実施

実施日	会場	狙い	連携先
9/20 (金) 9/21 (土) 9/22 (日)	西公園北側地区 (中央広場付近)	日常的に開催されるプレーパークとの相乗効果が期待される遊びコンテンツや設備等についてのニーズを把握する	【全日】 西公園プレーパークの会
	一番町四丁目商店街 (仙台三越定禅寺通館前)	商店街で開催されるイベントと連携した遊び場のニーズを把握する	【9/20,9/21】 moreTOHOKU マルシェ (more TOHOKU マルシェ運営事務局/ 一番町四丁目商店街振興組合)
	定禅寺通中央緑道 (せんだいメディアテーク前)	四季を通じてまつりやイベントが多く開催される定禅寺通において遊び場のニーズを把握する	【9/22】 SENDAI SDGsWEEK (仙台青年会議所) 9/21, 22 雨天中止



4 アンケート調査

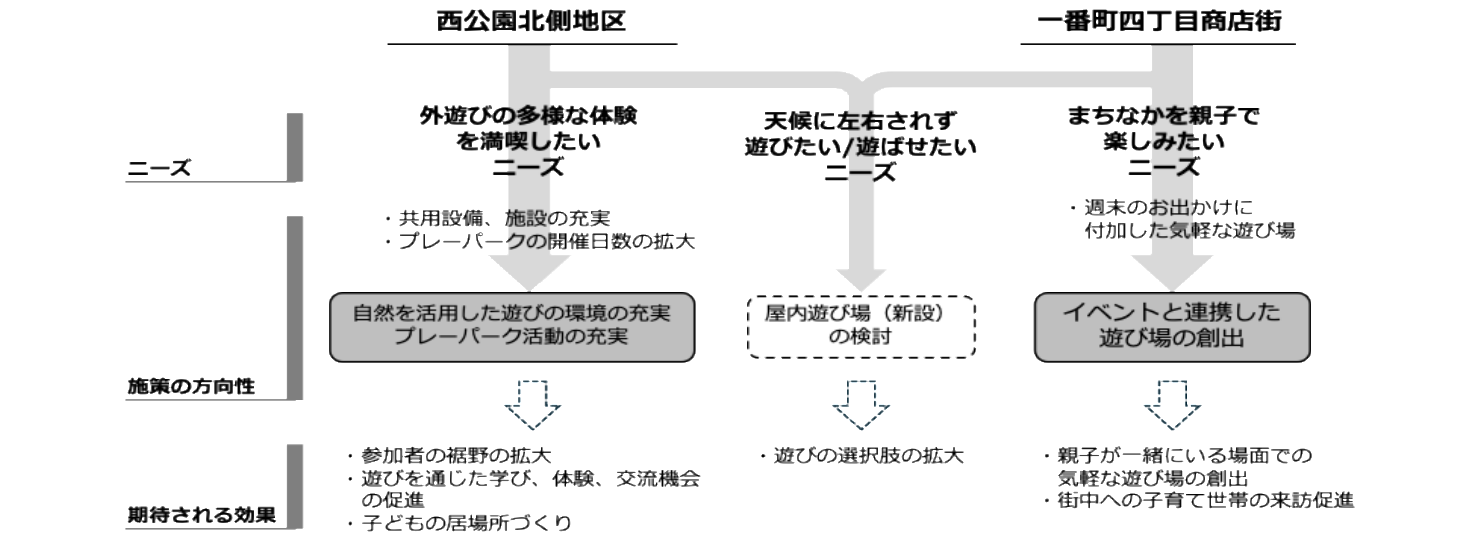
(1)各会場の結果

- ① 西公園北側地区(来場者数 247／回答数 53)
- 来場者の特徴
 - ・比較的リピートの多い近隣在住者が中心
 - ・青葉区外からの参加者もあり、目的性が高い
 - 遊び場として高く評価された点
 - ・アクセスしやすい都心部の貴重な自然環境
 - ・大人のプレーリーダーが見守る中、自然資源を活用した遊びを体験できる場
 - ・親子で楽しむことのできる工夫されたプレーパーク活動
 - ・長時間楽しく遊ぶことのできる遊び場環境やコンテンツの豊富さ
 - ・こどもの居場所、親同士の交流の場所
 - 子育て世帯のニーズ
 - ・屋根のある空間、飲食施設、おむつ交換室、休憩スペースなどの共用施設
 - ・プレーパークの開催日数の拡大
- ② 一番町四丁目商店街(来場者数 327／回答数 111)
- 来場者の特徴
 - ・比較的広範囲からの来街が見られる
 - ・買い物やイベント目的の来街が多い
 - 遊び場として高く評価された点
 - ・こども向けの居場所が少ない商店街にあって、貴重なこどものためのスペース
 - ・買い物やイベントなどの主目的の合間に参加できる気軽な遊び場
 - ・落書きやプレーキットなど（汚れなどを気にせず）簡単に体験することのできる遊びコンテンツ
 - 子育て世帯のニーズ
 - ・親子でゆっくりと商店街を楽しむことのできる「子育てフレンドリーな店舗・サービス」、「自由に利用できるキッズスペース」、「気軽に飲食できるスペース」などの親もこどもも居心地の良い空間
 - ・ベビーカーで入れるトイレ、おむつ替えができる場所

③ 会場共通のニーズ ・天候に左右されない屋内遊び場

※定禅寺通中央緑道については、雨天中止の影響により結果省略

(2)アンケート結果の整理



5 ヒアリング調査

- ・プレーパーク活動団体、子育て支援団体、イベント主催者及び商店街組織へのヒアリング調査を実施

6 考察

(1)西公園北側地区

- ・アンケートでは、既存のプレーパーク活動を高く評価。また、より一層のプレーパークの開催日数の増加や食事施設、屋根空間、授乳室等の共用施設の充実といったニーズが伺え、プレーパーク活動への参加機会の充実や、公園の共用設備の充実に向けた整備が求められている。
- ・ヒアリングでは、プレーリーダーとなる人材の不足や資金不足が挙げられ、プレーリーダーの育成やプレーパークの開催支援の取組が求められている。また、子育て家庭が必要な情報に簡単にアクセスできるように、情報発信の強化も求められている。

(2)一番町四丁目商店街・定禅寺通中央緑道

- ・関係者へのヒアリングでは、各団体間でつながりがなく、相互に連携できていないという課題が共通していた。それらの団体間を仲介支援することで、各団体の強みが発揮され、イベントと遊び場の効果的な連携が可能。また、イベントと連携した遊び場を継続的に実施することで、子育て世帯の滞在時間増加による商店街への経済効果や、子育てフレンドリーな店舗等の増加へのきっかけづくりといった効果も期待される。
- ・加えて、連携をより促進させるための支援策として、各分野の団体から子育て世帯への広報支援が求められており、特にイベントにおける集客の後押しとなることで、この連携の仕組みの持続にもつながる。
- ・そのほか、イベントでの遊び場等に対する金銭的な補助への意見もあり、遊び場自体が直接的な収益に繋がりにくいという課題に対するインセンティブとして機能するものと考えられ、支援策の一つとなる可能性がある。